

日付	曜日	エサ	状態	備考
12月18日	金	ウスラ	解凍冷	♀のフクロウがきている。獣のような声(ビエービエー)ソフトリリースを目指したい。生餌を早急に考える。
12月19日	土	ウスラ	解凍冷	
12月20日	日	ヒヨコ	生	中雛(ハトよりは小さい)を置く。夜で動かないが食べない。
12月21日	月	ヒヨコ	生	半死だと握っている。
12月22日	火	ヒヨコ	生	昨日のものを少し食べている。新しく生きている小さ目のものを与えるがたべない。 大きすぎる可能性もあるし、狩りをしたこともないせいもあるので段階を追う。
12月23日	水	ヒヨコ マウス	解凍温	濡らさず、温かいものを与える。 ヒヨコは頭だけ食べている。あとは問題なく食べている。
12月24日	木	ヒヨコ マウス	解凍温	残なし。
12月25日	金	ヒヨコ マウス	解凍温	残なし。
12月26日	土	マウス	解凍温	残なし。 発信機と金属リング装着。 住宅街では装着後はうまく受信できない。 開けた場所ではかなりの距離(約1km)で受信できた。 発信機は11g、土台とパテを含めて15g弱。当日体重880gに対し、1.7%にあた
12月27日	日	ヒヨコ マウス	解凍温	残なし。 枝に止まっているのに発信機が1秒に1回のビーコンがでる。
12月28日	月		解凍温	
12月29日	火	野ネズミ	生	タコ糸に結んで与える。捕食している。
12月30日	水	ヒヨコ	生	食べない。鳴くためか。 死んだあとも食べていない。 死体を株の上に置くと食べている。
12月31日	木			
1月1日	金			
1月2日	土			
1月3日	日			
1月4日	月			
1月5日	火	ウスラ	解凍冷	食べていない。 小屋に放したあと食べていなかったことはなかった。 呼吸も胸の動きはわかるが、これは興奮していることも考えられる。 フクコ(フクロウ1号)についてもここまでではないが動いているのが見えるため正常範囲か。様子を見るしかない。
1月6日	水	ウスラ	解凍冷	すぐに食べている。 よく飛んで元気そうなので問題はなさそう。
1月7日	木	ヒヨコ	解凍冷	すぐに食べる。 様子に違和感はない。
1月8日	金			
1月9日	土			
1月10日	日			
1月11日	月			
1月12日	火			
1月13日	水	ウスラ	解凍温	半分残している。気温も低いのでそのまま放置して次の日に。
1月14日	木	ウスラ	解凍温	昨日の半分と今日の分を両方食べる。
1月15日	金	ウスラ		
1月16日	土			
1月17日	日	ウスラ	解凍冷	食べていない。天気が雨だったため頭が濡れてる。膨羽、体の濡れはなし。
1月18日	月	ウスラ	解凍冷	今日も天気が悪いが、エサはしっかりと食べた。
1月19日	火	ウスラ	解凍冷	体のどこも濡れている様子はなく、体調も悪い様子はない。 雪が降ったが震える様子もないし、食欲もある。
1月20日	水	ヒヨコ	解凍温	
1月21日	木	ウスラ	解凍温	半分だけ食べて残している。気温が低いのでそのまま置いておく。

1月22日	金	ウスラ	解凍温	エサをやりに行くところ昨日の半分を食べているところだった。今日の分も追加で置いておく。(残なし)
1月23日	土	ヒヨコ	解凍温	
1月24日	日	ウスラ	解凍冷	雪。エサが雪に埋もれたためか食べていない
1月25日	月	ウスラ	解凍冷	雪が株に残っているので、巣箱の前の止まり木に置く。(残なし)
1月26日	火	ウスラ	解凍温	最近では早朝は巣箱から出てくる。夜中のうちに巣箱に入っている様子。
1月27日	水	ウスラ	解凍温	
1月28日	木	マウス	生体	マウス(白)をタコ糸で結んで与える。すぐに食べる。
1月29日	金	マウス	生体	マウス(白)をタコ糸で結んで与える。マウスは出血して死んでいる。横にフクタロウの糞は落ちている。握ったときに噛まれるなど嫌なことがあったか。次の朝には食べてあった。
1月30日	土	ウスラ	解凍冷	発信機の練習を行った。住宅街のためか300mほどしかとれない。木の上等によろせると変わるか。以前の練習では1キロ以上とれたので、場所の違いか。
1月31日	日	-	抜き	
2月1日	月	ウスラ	解凍冷	以前よりも飛ぶ音が小さくなった気がする。
2月2日	火	ウスラ	解凍冷	残なし
2月3日	水	ウスラ	解凍冷	残なし
2月4日	木	ウスラ	解凍冷	残なし
2月5日	金	ウスラ	解凍冷	残なし
2月6日	土	ウスラ	解凍冷	残なし
2月7日	日	マウス	生体	すぐに食べる。マウスは弱ってはいたがすぐに食べにきた様子。動画失敗。
2月8日	月	マウス	生体	動画成功。マウスはこれまでで一番大きい。おそらく30g以上。
2月9日	火	ウスラ	解凍冷	残なし
2月10日	水	ウスラ	解凍冷	残なし
2月11日	木	マウス	生体	動画成功。電気をつけても捕る。タコ糸が引っ張れないためその場でちぎって食べる。(25g)
2月12日	金	ウスラ	解凍冷	25gほど。
2月13日	土	-	解凍冷	強い雨のため今日はエサなし。
2月14日	日	ウスラ	解凍冷	残なし
2月15日	月	ウスラ	解凍冷	野生♀きてる
2月16日	火	ウスラ	解凍温	野生♀きてる
2月17日	水	ウスラ	解凍温	野生♀は来ていない様子。
2月18日	木	ウスラ	解凍温	
2月19日	金	ウスラ	解凍温	
2月20日	土	ウスラ	解凍冷	
2月21日	日	-		3月に入ると放鳥を考えていくべき。
2月22日	月	ウスラ	解凍冷	残なし
2月23日	火	ウスラ	解凍冷	残なし できるだけ早く、カメラを設置したい
2月24日	水	ウスラ	解凍冷	カメラを設置。巣箱の横の平なところで食べている。ブランコは思った以上に両方使っている。野生♀の鳴き声らしきものが聞こえるが姿は見えず。もしかしたらフクタロウの声である可能性もあるか。しかし、♀と♂では鳴管の形状が違うため、♀は♂のようなきれいな鳴き声は出せないと言われたものもあった。しかし、♂が♀の声を発する可能性はあるのではないかと。インコの行動学によると鳴き声は学習によるものであるとの記載があった。♀がきていたためそれを覚えた可能性はないか。しかし野生のフクロウであっても長く一緒にいるのは母である♀である。♂も子育てをすることから考えても、その可能性は消すべきか。どちらにしてももう少し観察する必要がある。
2月25日	木	ウスラ	解凍冷	観察をしていると夜中の3時半ごろに唸る声が聞こえた。しかし、カメラの向こう側を向いていたが、あきらかに声に合わせてタロウの体に力が入っていた。うなり声はフクタロウ自身の声である可能性が高くなってきた。もう少し観察を続ける。複数の目で確認をするため、アプリへの接続を早急に行いたい。
2月26日	金	ウスラ	解凍冷	想像していた以上に、夜はいろいろと飛んであばれている。上にもいくしそれぞれの止まり木を超えてネットに捕まり、止まり木に帰ってくる。それでも羽が折れていないことから寒冷紗は有効と言える。

2月27日	土	マウス	生体	葉でかくして捕らせてみる。ちゃんと捕る。約80cm四方の出入り口をつくったがバンダーによるともっと小さくてもいいのではないかとのこと。巣箱も入口を小さくした。大きくするとカラスを懸念するものの、あまり小さいと入口が分からなくなる可能性もあるか。また昼はかえってきているようならば、夜だけ開けるというのもバンダーから提案をもらった。 巣箱の中にエサの残を確認。たまに余している様子。
2月28日	日	マウス	生体	動画あり。葉でかくしてみるのがネズミが出てくるのであまり変わらない。今日は飛びつくまでに時間がかかった。小屋の中でかなり暴れていることから、できるだけ早いソフトリリースが良いか。
2月29日	月	ウスラ	解凍温	残なし。巣箱の入口を小さくしたものの関係なく出入りしている。雪がふぶいているがカメラ側の屋根のないところにいる。
3月1日	火	ウスラ	解凍冷	巣箱の出入りもかなりスムーズ。血液およびフンによる雌雄判定を再度行うため、放鳥の前に採取する。
3月2日	水	ウスラ マウス	解凍冷 生体	捕食する。動画は撮れず。
3月3日	木	ウスラ ヒヨコ	解凍冷	採血。BW800g。羽は右翼は破損があるが、左翼、尾羽に破損なし。体重だけ少し下がっているの、上げる準備をする。ただし、前日を含め、先週は小さいマウスが1匹だけの日が3日あったので少し下がっている可能性がある。90%以上はあるので何の問題もない。 (情報) 保護時:2014年7月29日、体重492g、キールスコア1、意識混濁、脱水10%以上、低体温、口内検査⇒球菌(+++)、糞便検査⇒吸虫卵(+++)・桿菌(++)、消化不良、血液塗抹⇒赤血球内寄生虫(++) 移動時:体重851g、糞便検査、口内検査、血液検査異常なし、食欲(+)
3月4日	金	ウスラ	解凍冷	以降放鳥まで丸ごと一匹など残が出る量を与える。残あり。
3月5日	土	ウスラ	解凍冷	残なし
3月6日	日	ウスラ	解凍冷	残あり 保護された場所は、大阪府千早赤阪村と判明。
3月7日	月	ウスラ	解凍冷	残なし。
3月8日	火	ウスラ	解凍冷	残なし。
3月9日	水	ウスラ	解凍冷	少し食べただけで残がかなり多い。日により残す量が多い。今日は必要なかったか。それとも、単に落とされたためか。
3月10日	木	ウスラ	解凍冷	残なし
3月11日	金	ウスラ	解凍冷	巣箱の中に大きな残あり。
3月12日	土	ヒヨコ	解凍冷	放鳥日。小屋を出ていく前にヒヨコを1羽与えたが、落していた。17:30に小屋を開けたが、開いているのはわかっているもののためらう時間が長い。外へでて、青柳の神社へ。発信機はしっかりとれた。特にスクエアアンテナは有効だった。
3月13日	日	-	-	7:30過ぎから搜索を開始。先ほど最後に信号をとった神社へ。信号をとるものの少し遠い感じがする。そのため日吉神社の方へ行く。また信号が遠くなるので、もう一度元の場所へ戻る。かなり強い信号。歩いて目視により搜索。しばらくするとカラスやトビが多く空と地面に集まってきた。その中心を見ると茶色い物体。近づくとすでに息絶えたフクロウ。(8:14)首と脇におおきな裂創。おそらくカラスにやられたものだろう。死後硬直もなく、ぬくもりが残る。一度目に通ったときにはトビやカラスの姿はなかった。もっと早くに行けば助かったかもしれない。神社にカラスの巣があった様子。カラスからの防御は親に習うものなのか。再度生きて回収できたならば次はカラスを避けて生活したのではないか。後悔が残る。猛禽と言えども、1羽の場合はやられる側に回ることも多い。やはり2～3日の追跡は必要だろう。今後、これをしっかりと検証し、将来の個体に活かすことが大切である。
放鳥記録				
3月12日	土	17:37		ケージの出入り口を開ける。
		18:12		巣箱の前に置いてあったエサ(ヒヨコ)をとる。
		18:29		ブランコの方へエサをもって飛ぶ。
		18:32		巣箱に戻る。
		18:34		巣箱から顔を出す。
		18:38		巣箱から出る。前の止まり木へ。
				止まり木を左右に歩いて行き来する。
		18:34		ブランコへ。(カメラの死角にある)

		20:03	カメラから見えるブランコへ移動。すぐにまた見えない側のブランコへ。
		20:53	出入り口付近の止まり木に移動。
		20:54	キョロキョロしてから、また奥のブランコへ。
		21:21	入口に一旦乗ってから、飛ぶ。30mほど南東の木の高いところにとまる。
		21:37	木から南西へ約60m先の電柱の先に止まる。
		21:45	電柱の先から下降しながら飛ぶ。行先が不明。しかし発信機からおそらく南西へ約90m先の木へ。もしくはそこまでの木や構造物を経由しながらその先の木
		20:45	メンバーYを安曇川駅へ。発信機をとりながら行くと消防署あたりで強くなる。このときには田で分断された地形を大きく飛んだことが予測できる。
		23:05	発信機を頼りに居場所の特定へ。発信機により、おそらく青柳の奥呂岐神社(776m先)と日吉神社(930m先)を行き来した様子。
		23:30	このときは日吉神社の周囲の木より発信がある。
3月13日	日	0:00	奥呂岐神社から発信あり。奥呂岐神社と日吉神社の間は約170m。
		0:40	最後の居場所を確認するため搜索。
		1:00	最後の発信を奥呂岐神社敷地内の北側の高木上部にいることを特定し、追跡を一旦やめる。
		7:30	搜索を開始。昨日のところに発信をとるが少し弱い。姿も見えない。
		7:40	日吉神社の方へ。こちらでも強い発信はない。神社の至る方向からとるがどれも強くはない。青柳の島(神社より東側の通り)の方の通りへ。
		7:50	島の方も強い発信はない。神社より北東にある八幡宮の方へ。発信が強くなったようにも思ったが、いる様子はない。もう一度、奥呂岐神社へ。
		8:00	奥呂岐神社付近を4人で歩いて搜索。姿も見えないが発信はとれている。
		8:10	奥呂岐神社の北側の田に多数のカラスとトビが集まっている。その中心に茶色い物体を発見。かけよるとフクロウの姿。もう息はない。首と脇に大きな裂創あり。死後硬直は翼もどこもない。まだぬくもりがある。数時間もたっている様子はない。少し前に通ったときにはカラスやトビはいなかった。

